

にんぎょうとうげ



発行：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
 バックエンド研究開発部門
 人形峠環境技術センター 総務課
 岡山県苫田郡鏡野町上齋原1550番地
 電話 0868-44-2211 FAX 0868-44-2502
 HPアドレス <http://www.jaea.go.jp/04/zningyo/index.html>

平成27年度 事業計画

人形峠環境技術センター(以下「センター」という。)は、ウラン濃縮関連施設や鈾山関連施設の廃止措置を継続するとともに、放射性廃棄物の処理・計測技術等の技術開発を進めます。業務の実施にあたっては、安全確保を大前提とし、計画的かつ効率的な業務の推進に努めます。また、環境保全活動並びに地域社会との共生への取り組みを継続します。

平成27年度のセンターの取り組み事項は以下のとおりです。

1. 事業(開発・研究等)に関すること

- 1)ウラン濃縮原型プラントは、第一運転単位(DOP-1)の滞留ウランの除去・回収を開始します。
- 2)製錬転換施設は、放射性廃棄物ドラム缶中の内容物の詰替え並びに廃棄物のインベントリ調査及びウラン量の測定をします。
- 3)濃縮工学施設は、遠心機処理の継続並びに除染済部品のクリアランスを継続します。また、澱物の処理プロセスの設定検討に必要な試験の継続並びに試験場所確保のための設備解体を継続します。
- 4)複雑形状の金属が放射線管理上問題ない線量レベルであることを検証するクリアランス計測技術の開発を昨年度に続き継続します。
- 5)鈾山施設は、適切な維持管理を継続するとともに、鈾さいたい積場の今後の措置に必要な調査等を継続します。
- 6)センター各施設、設備及び廃棄物の安全かつ適正な管理を継続します。

7)ウランと環境研究プラットフォームの構築に向けた検討に着手します。

8)東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故の収束に向けた対応として、環境修復の技術開発やコミュニケーション活動等への人員派遣の支援を継続します。

2. 安全確保・環境保全に関すること

1)センターは、今年度より「環境・品質マネジメントシステム」の名称を「業務・品質マネジメントシステム」に改め、安全確保、法令遵守を徹底し、無事故無違反の達成を目指すとともに、計画的なエネルギー管理、省資源を推進し、地球温暖化防止等の環境に配慮した事業活動を継続します。

3. 地域・社会への対応に関すること

- 1)地域振興への支援、説明会等への対応、広報紙の配付等を継続し、地域との積極的なコミュニケーションを図り、地域社会との共生に努めます。
- 2)地元大学、高専との連携協力の強化、地元民間企業との交流を図り、産学との連携交流の推進を継続します。
- 3)インターネットホームページ等を活用し、センター事業内容の紹介、研究開発成果及び環境モニタリングデータ等の情報公開を継続し、適時、分かり易い情報発信により、地域社会の理解と安心の向上に努めます。

(計画管理室)

課室紹介

～環境研究実証試験準備室～

昭和30年にウランの鉱床露頭が発見されて以降、人形峠環境技術センターでは、ウランの探鉱や採鉱、製錬、転換、濃縮等のフロントエンドの研究・開発を行ってきました。平成13年にこれらフロントエンドの研究・開発が終了し、技術開発成果の一部は民間の事業者へ引継がれました。その後、製錬転換施設を対象として、ウラン取り扱い施設の廃止措置技術に関する実証的研究・開発や使用済み遠心分離機を使った、金属のクリアランス再利用に向けた除染・測定等の研究・開発を行ってきました。これらの研究・開発成果を踏まえ、平成24年度には、廃止措置段階の業務を安全かつ合理的に実施するための事業計画を策定し、自らの施設の廃止措置を着実に進めると共に、ここでの研究・開発成果を国内外に積極的に発信してきています。

一方、廃止措置を進めると、クリアランス再利用が困難な、ウランが付着した金属やコンクリート等の解体物も発生します。これらをどのように扱うかは、国内外を問わず、原子力を利用する上で、解決すべき重要課題の一つとなっています。私たち「環境研究実証試験準備室」は、まさに、この課題にチャレンジするために、本年4月に新しくできた組織で「探鉱からウラン濃縮、廃止措置及



環境研究実証試験準備室の皆さん

び鉱山跡措置を通じて蓄積された、ウランにまつわる知財、人材を総合的に有する国内唯一の機関である原子力機構 人形峠センターのポテンシャルを活用し、人形峠という立地地域の特徴を活かした自然科学、社会科学分野の研究拠点の構築を目指しています。また、具体的には、ウランの長期挙動評価や地質・水理調査などの自然科学研究と研究者・技術者の育成システム、地域とのコミュニケーションといった社会科学的研究が当面の業務となっています。「ウランと環境研究」を通じて、新たな人形峠環境技術センターの在り方を示していく。これが、私たち「環境研究実証試験準備室」です。

ボランティア清掃を実施

5月16日(土)、従業員及びその家族を含めた総勢約60名の参加のもと、ボランティア清掃を実施しました。



小雨の中での作業

当日は小雨が降る中の作業となりましたが、岡山県側、鳥取県側及びセンター東門の各町道に分かれて、それぞれゴミ拾いを行い、ゴミ11袋を回収することができました。今後も一人一人の心がけでゴミが減るように気をつけていきましょう。参加いただいた皆様お疲れ様でした。(総務課)



回収したゴミ

とっとり共生の森作業実施

5月16日(土)、鳥取県、三朝町、倉吉農業高校、機構役員、センター安全等連絡協議会会員とその家族約50名の参加のもと、「とっとり共生の森」のレンガ加工場跡地において、積雪により倒れた植栽木を起こす作業や草取り、施肥作業を行いました。



当日は、小雨の降るあいにくの天候となりましたが、参加者で協力して作業を進めることができました。ありがとうございました。次回の開催は秋を予定しています。ご協力をお願いいたします。(総務課)



参加された皆さん